

歴史・楽学講座2 講義録（資料の補足）

文責：中島 浩史

1. 講座について

- (1)開催日：2023年6月1日(木) 10:00~12:00
- (2)講師：三浦 明彦氏
- (3)会場：熊西市民センター 多目的ホール
- (4)受講者：25名

2. 講義概要

(1)松平忠直とは

①大分で暮らしていた徳川家康の孫（浄土寺所蔵の肖像画より）

- ・鬚を落としており、配流後の忠直の肖像画。
狩衣を纏い、後ろに鎧びつと太刀、トラの皮を敷いており、生活には余裕があった。
- ・徳川家康の孫で、大河ドラマの主人公「お江」の娘婿。
菊池寛の小説「忠直卿行状記」の主人公
※菊池寛は香川県高松市出身。高松松平家の家臣に「菊池家」あり。
※栗林公園は高松松平家が造営。

②松平氏と大分

- ・府内藩主：大給(オホキ)松平氏・・・大分市の基礎を築いた。
家康の5代前の松平親忠の次男：乗元が分家して、三河国加茂郡大給(現.豊田市)の領主となり「大給」姓を名乗ったことに始まる。
府内藩主となった松平家は乗元の孫にあたる親清に始まる分家。
親清から5代目の松平忠昭の時に亀山城主より府内城に入城。以後、10代、約220年間続く
※忠昭の転封は格下げと受け取れるが、大大名がひしめく九州への監視となる譜代大名の設立政策の一環（小笠原氏一族や能見松平氏と同様）
- ・杵築藩主：能見松平氏・・・国東半島一体、3万7千石
家康の6代前の松平氏3代「松平信光」の子：光親を祖とし、三河国額田郡能見(現.岡崎市)を本拠としたところから「能見」姓を名乗った。
7代英親のときに杵築藩へ転封。以後、10代続く。
- ・松平忠直（一伯）
家康の次男「結城秀康」の長男。
- ・松平(結城)秀康は、家康と「お万」の間にできた子。家康は次男だが認知しなかった。
※お万は湯女(ユメ)：風呂の世話役。家康と湯殿で男女の関係へ→秀康を妊娠
しかし、家康はお万を好みでは無く、「お愛」を溺愛した→秀忠の誕生→2代将軍
※秀康は当時忌み嫌われていた「双子」：当時、一方は間引きされるのが常。
弟の貞愛(サダキ)は、お万の実家(寺)へ里子に出された。

秀康は秀吉に養子に出され、「羽柴三河守秀康」へ。
 その後、結城家へ養子へ。「結城秀康」10万7千石
 →関ヶ原の戦いで武功(越前一国・越後一部75万石) →松平秀康
 ※家康が家督を譲ることを検討した時の青年男子は6名
 ・信康(切腹) ・秀康 ・秀忠 ・忠吉 ・信吉 ・忠輝
 →秀忠も秀吉に養子に一時出されていた「羽柴武蔵守秀忠」 →徳川秀忠
 ※2代将軍は「秀忠」へ
 →「制外(せがい)の家」：秀康が秀忠の将軍祝いに江戸城へ向かう際に、秀忠が品川宿まで迎えに行き、兄弟で江戸城へ入城。秀忠は周りの悪評に対し、「越前福井松平家は他の大名と違って、自分の兄であり、法や仕来りに左右されない」と宣言。
 ※秀康は文武に優れ名声を博した。
 →城内で歌舞伎を愉しむ際に、武士達が「出雲阿国」に夢中になり大騒ぎとなった。前で観ていた秀康がすっと立って、皆を無言で見返したら一瞬で静かとなる。出雲阿国は秀康に惚れた。一世を風靡する彼女が惚れるだけの男として名声へ。
 →当時の歌舞伎は「女歌舞伎」。風俗が乱れる元凶として男歌舞伎へ。

(2) 忠直の歴史的働きとは

※秀康が急死(34才) →忠直が若く(13歳)して越前一国の国主の座+北之庄城主家督75万石→若いので68万石となる。
 →北之庄城を改築する際によく水が湧き出る井戸があった(脹く井戸)→福井城
 ※越前福井松平家の家臣 →大坂城夏の陣で一番乗り(真田幸村を討ち取る)
 ・本多富正 ・本多成重 ・今村掃部(カモ) ・多賀谷修理 ・松平民部
 →松平民部は家康が厄年の時に生まれ、認知されなかった

(3) お江との関係とは

- ・ 忠直は、お江の夫：徳川秀忠の甥であり、お江の三女「お勝」の婿。
 忠直とお勝との間に、光永・亀故・鶴子が誕生。
- ・ 忠直の兄弟関係
 忠昌：次の福井城主、直政：出雲松江城主(子孫に治郷→茶道：不昧流を創設)、
 直基：津山松平家
 直良：越後糸魚川松平家
- ・ お勝の姉妹・兄弟関係 : お勝は2代将軍秀忠の4女
 お千：豊臣秀頼の正室、子々(ネ)：前田利常の正室、家光：3代将軍、
 和子：第108代天皇(後水尾天皇)の皇后、明正天皇(女帝)の生母

(4) 忠直の人生とは

- ・ 忠直と重臣たちとの対立・・・久世(越前)騒動 cf:伊達騒動・加賀騒動
 今村掃部vs本多富正(久世但馬守)の序列争い→久世側一族全員が討死→江戸幕府の裁許
- ・ 領民に対する圧政→「お蘭」への溺愛、側室に。
 →一國女・傾城の女・傾国の女(唐の玄宗皇帝が楊貴妃に貢いで国を滅ぼした事由)

- 暴力・・罪人を試し切り、妊婦の腹を裂く等の言い伝え(他の暴君にも同様な話散見)
- お勝が実家(江戸)に帰る
- ・幕府への反抗的姿勢
 - 大坂夏の陣での恩功なし(慰勞する際に家臣に禄高増を伝えていた)
 - 元々は父が2代將軍になっていた。加賀前田藩100万石・薩摩島津藩77万石より上では。
- ・切支丹信仰の疑い
- ★上記により、所領地没収、改易処分へ→豊後(大分)へ配流(5千石)
 - 配流の地として九州。九州には有力大名がひしめいており、豊後の地へ日田天領(幕府直轄地)、長崎奉行所、四日市陣屋(宇佐八幡宮近隣)と監視体制がある。

(5)忠直の豊後での生活とは

- 別府亀川→萩原→津守(漁港があって外海へ)
- お蘭が亡くなり改心し、居館近くの神社修復、再建等の貢献を果たす。
- 剃髪入道として「一伯(イッパク)」と号す。

(6)大分に於ける忠直関係の史跡とは

- ・津守の居館跡
- ・熊野神社の社殿(熊野神社より分霊して建立)
- ・六角堂
- ・靈山寺
- ・浄土寺の靈廟
- ・忠直を監視するための府内城(大分城址公園)
- 御廟とは、墓石を守るために建てられたお堂。
- 逆修墓(ギョクシュホ)とは、生きているうちに事前に建てる墓。

(7)大分銘菓「一伯」とは

求肥(ギョウヒ)で良質な漉し餡を包み、もち米を焼いて作ったウエハスで挟んだ茶菓子。

(8)まとめとして

- 忠直が配流された前後には、天草島原の乱、鎖国体制
- 幕府が一番、キリスト教信仰に神経を尖らせていた。
- 本当に忠直は暴君であったのか？ (切支丹信仰の噂)

以上